

2016 年度 学校関係者評価  
報告書

学校法人滋慶学園  
東京医薬専門学校

作成日：平成 28 年 6 月 13 日

学校法人 滋慶学園 東京医薬専門学校  
第 1 回学校関係者評価委員会議事録

議事録作成者：西田 茂男

1. 開催日時 平成 28 年 6 月 13 日（水） 15:00～17:00

2. 開催場所 滋慶学園東京本部会議室

3. 参加者 学校関係者評価委員

多田 英人 卒業生代表（同愛会病院）  
保戸田 武 地域代表（葛西仲町町会）  
彦田 英治 地域代表（葛西仲町町会）  
五十嵐 樹 業界代表（笹本保育園）  
村瀬 恵子 業界代表（葛西昌医会病院）  
篠原 陽子 業界代表（日本チェーンドラッグストア協会）  
神谷 文夫 業界代表（株式会社コスメティックアイダ）  
古川 哲也 業界代表（柏戸病院）  
室岡 孝二 業界代表（江戸川区学校歯科医会）

学校側参加者

須田 英明	東京医薬専門学校	学校長
中嶋すぎ子	同	事務局長
西田 茂男	同	教務部長
阿部憲一郎	同	広報センター長
渥美 康晴	同	キャリアセンター長
鈴木 保夫	同	学生サービスセンター長

#### 4. 議事

- (1) 学校長挨拶
- (2) 各委員の紹介
- (3) 学校関係者評価委員会の目的確認

平成 27 年度の報告に対し、ご意見・評価をいただくことで教育活動の質の向上、学校運営の改善・強化推進の機会とする。

(中嶋)

本年度、「協働の学び」というコンセプトに産学連携、特に卒業生との連携を加え教育活動の実践を行っている

- (4) 平成 27 年度自己点検・自己評価の内容と平成 28 年度重点目標の説明

##### ① 教育理念・目的・育成人材像

(西田)

学園では現在 70 校（学生総数約 35,000 人）を運営。学園の基本理念である「職業人教育を通して社会貢献を行なう」、建学の理念である「実学教育・人間教育・国際教育」をベースに H 2 7 年度は「業界×地域×学校」「協働の学び」を掲げ「チームで成果を上げる人材」を育成人材像として活動した。

##### ② 学校運営

上記のコンセプト実現のために、事業計画において地域・業界・他学科と連携した教育プログラムの構築をおこなった。

##### ③ 教育活動

(西田)

指標として退学者の推移と退学者の状況を説明。国家試験については学校により合格率に大きな差が出てしまったこと、退学率は年々減少傾向にはあるが、まだまだ学生対応のスキルを上げることが課題としては残る。

##### ④ 教育成果 ⑤ 学生支援

(西田)

上記の退学者防止対策の取組として、入学時の研修の工夫、カウンセラーとの連携の強化、2.9%の退学率をより 0 に近づけていく努力をすることを説明

##### ⑥ 教育環境

(西田)

⑦ 学生の募集と受け入れ

(阿部)

近年に立ち上げた新規学科の募集が苦戦している。法令を守りながら体験入学については様々な工夫をしている。

⑧ 財務

(西田)

財務については問題がないと考えている

⑨ 法令等の遵守

(西田)

学園法人での監査を受けており問題はない。

⑩ 社会貢献

(西田)

昨年度における各学科の実施状況について説明。救急救命士科(消防団活動等)、視能訓練士科(小学校での健診補助)、こども心理科(こども教室)。

意見・質問

①入学時に全学科の学生が工夫された研修を同じ内容で実施しているのは評価できる

地域との連携が今後大切であり、重要になる

②意思決定がすっきりされていて分かりやすい

事業計画がしっかりと立てられている

職員が自立的に動けるシステムがある

③教育課程編成委員会のみでなく、社会現場のニーズが考えられている。

現場でも離職は問題になっていて、課題となっている。取組は現場でも参考になる。

退学理由について質問→精神的問題、学習面、モチベーションの低下が要因として大きい

④就職試験で志望の理由が答えられない人も受験してくる時代になっている

⑤医療は資格がないと働けない世界。合格率の向上が募集になるのではないかと思う。

⑦高校に細かいアピールが必要なのではないか？

⑩いろいろな学科の取組は素晴らしい。社会貢献は人に寄り添う人材になれる。

ボランティアは単位になっているのか？→現状はほとんどない

委員からの評価

※学校関係者評価委員会 評価結果参照